

「総合的な学習の時間」における児童の学びを深める教師の支援に関する研究
児童にとって有意義な学びとなることをめざして

広島市立五日市小学校教諭 久保田 健

問題の所在

特色ある教育活動の展開や自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」の育成をめざして創設された「総合的な学習の時間」では、学習観や指導観の転換が必要となってくる。小学校学習指導要領総則第1章第3の2には、その時間のねらいが次のように示されている。

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

このねらいから、「総合的な学習の時間」における教育活動の特性は、児童が自己の興味・関心等にもとづいて、試行錯誤をしながら、自己の問題を自分なりに解決することであると考えられる。そして、この時間の活動を通じた児童の学びとは、学校で学ぶ知識を自らの生活と結び付け、自己の生き方を考えることであり、そのためには、この時間の学びが、児童にとって生き方や生活するうえで有意義なものとなることが重要であると考えられる。

過去の自分の実践を振り返ってみると、児童の追究活動が停滞したり、深まらなかつたりという課題が残っている。その要因を考えると、児童が課題追究するもののその活動が主体的、創造的なものでなかつたり、具体的な活動や体験をするもののその活動成果を有意義な学びへと結び付けることができなかつたりしていることなどが挙げられる。

そのことは、教師の「学習の支援者」としての働きかけなどと大きく関わっていると考える。

そこで本研究では、「総合的な学習の時間」の授業実践を通して、児童の学びが、児童にとって有意義となるための教師の支援の在り方について追求することとした。

研究の方法

「総合的な学習の時間」の特性や学習活動の展開に関する基礎的研究をもとにして、児童にとって有意義な学びとなるための教師の支援を基盤とした授業実践を行い、その結果について分析・考察を行う。

研究の内容

1 授業実践の構想

広島市立A小学校第3学年(139名)を対象とした、テーマ名「大好き 町おうえんたい! ~じまんのまち 町再発見の巻~」の活動計画を作成した(表1)。

活動計画の作成に当たっては、活動のねらいを「自分たちの学習活動でのもの、こと、人とのかかわり合いを通して地域のよさや人々の地域に対する思いや願いを知り、住みよいまちづくりをめざす」と設定した。児童がこのねらいにせまる有意義な学びを実現することができるよう、支援の重点を次のように考えた。

めあてや目的意識をもって追究活動ができるように、児童の思いや考えを見取り、言葉かけをする。
活動を振り返り、成果を自覚することができるように「振り返りプリント」を活用する。
活動の成果をとらえ直すことを通して、分かり直しができたり、新たな課題をつかむことができたりするように、児童相互の伝え合いの場を設定する。

表1 「大好き 町おうえんたい! ~じまんのまち 町再発見の巻~」(全29時間)

テーマのねらい

自分たちの学習活動でのもの、こと、人とのかわり合いを通して、地域のよさや人々の地域に対する思いや願いを知り、住みよいまちづくりをめざす。

時	活 動 内 容	活 動 形 態
ふれ	1 ○オリエンテーション ・学習の意義、方法などについて概要を知る。 ・2年生の「まちたんけん」を思い起こし、さらに時間をかけてやってみたいことを出し合う。 ・出された意見をもとに、自分がやりたいことを決める。	学年一斉
る	4 再発見タイム ・同じ場所を選んだグループで集まる。 ・決めたことをやってみる。	課題をもとに編成したグループ
つか	1 交流タイム1 ・発見したことを発表したり意見交流したりする。 ・発表した内容や意見をもとに、調べたいことを決める。(課題の設定) 「もっと調べたい」「どうやったらできるのだろう」「を知りたい」「もっと、を知りたい」	学年一斉
む	2 ○計画タイム 課題によって再編成されたグループで集まり、調べる計画をたてる。	課題をもとに編成したグループ
し	4 しらべタイム1 ・グループで協力して、計画に沿って調べる。 ・予想される児童の活動の様子 「計画通りに進む」「新たに調べたいことが出てきた」「うまくできない」	課題をもとに編成したグループ
ら	3 交流タイム2 ・調べたことについてグループで発表したり、意見交流したりする。 ・思ったこと、気付いたことなどを交流し合う。 ・新たな疑問をつかむ。 ・自分の課題を繰り返し直す。	課題をもとに編成したグループ
べ	6 しらべタイム2 ・計画を立てる。 「地域のよさを知る」「店の人の思い、願い、工夫、努力などを知り、地域(地域の人)に対する自分の考えをもつ」	課題をもとに編成したグループ
まと	2 まとめるタイム ・調べたことから、店の人の思い、願い、工夫、努力などについて意見交流する。 ・調べて分かったことから、地域に対する自分の考えをもつ。 ・地域の人の思いや願いから、自分たちにできることを考える。 ・地域のよさをつかむ。	課題をもとに編成したグループ
つな	6 ぐ ・自分たちにできることを考える。 大好き 町おうえんたい! 自分たちにできることを考え、実行しよう。(おうえんたい報告会)	

2 授業実践の概要

(1) 「ふれる段階」の児童の活動

児童は、第2学年生活科での「まちたんけん」を想起し、もう一度行ってみたい場所ややってみたいことを検討し、「再発見タイム」でフィールドワークや実践活動に取り組んだ。

(2) 「つかむ段階」の児童の活動

児童は、「交流タイム1」において、「再発見タイム」の成果を交流し、それぞれが興味をもったグループに分かれ、活動のめあてや内容を検討した。表2は、その活動グループを整理したものである。

表2 活動別グループ G……グループ

グループ	人数
コンビニグループ	10
魚屋さんグループ1, 2	8 (G1), 7 (G2)
おもちゃ屋さんグループ	4
お花屋さんグループ	5
ケーキ屋さんグループ1, 2	5 (G1), 10 (G2)
おかしクッキー作りグループ	5
図書館グループ	4
ゲートボールグループ	6
八幡川での遊びグループ	5
八幡川の野鳥グループ	4
いろいろなお店のお手伝いグループ	10
おすし屋さんグループ	4
レストランでお料理グループ	4
八幡川をきれいにグループ	11
野球のできる場所探しグループ	7
パン屋さんグループ1, 2, 3	9 (G1), 8 (G2), 10 (G3)

(3) 「しらべる段階」の児童(ケーキ屋さんグループ2)の活動

「ケーキ屋さんグループ2」は、ケーキを作らせてもらいたいという目的で、「ふれる段階」での再発見タイムで3軒のケーキ屋さんをまわったものの、いずれもケーキを作らせてもらうことはできなかったグループである。しかし、3軒目のケーキ屋さんで人気のあるシュークリームに出会い、その味にこだわり、味のひみつを探ることをグループの課題とした。次のA児もそのグループの一人である。

A児の活動の様子(場面1)

この場面は、A児を中心に児童と教師との対話により活動が展開するが、児童も教師も課題の「解」を求めることばかりにこだわり、活動で獲得したものを児童にとって意味のあるものとして意識化させることができなかつたと考える場面である。すなわちこの場面では、味のひみつ(特に、隠し味は何か)を、店の人への聞き取りや店の中の観察などから追究してきたものの、児童が納得できる「解」が得られていないと考える。そこで、教師は活動の停滞を打破する手だてを考えた。

A児は、ケーキ屋さんでおいしいケーキをつくりたいという思いが特に強い児童である。図1は、こ

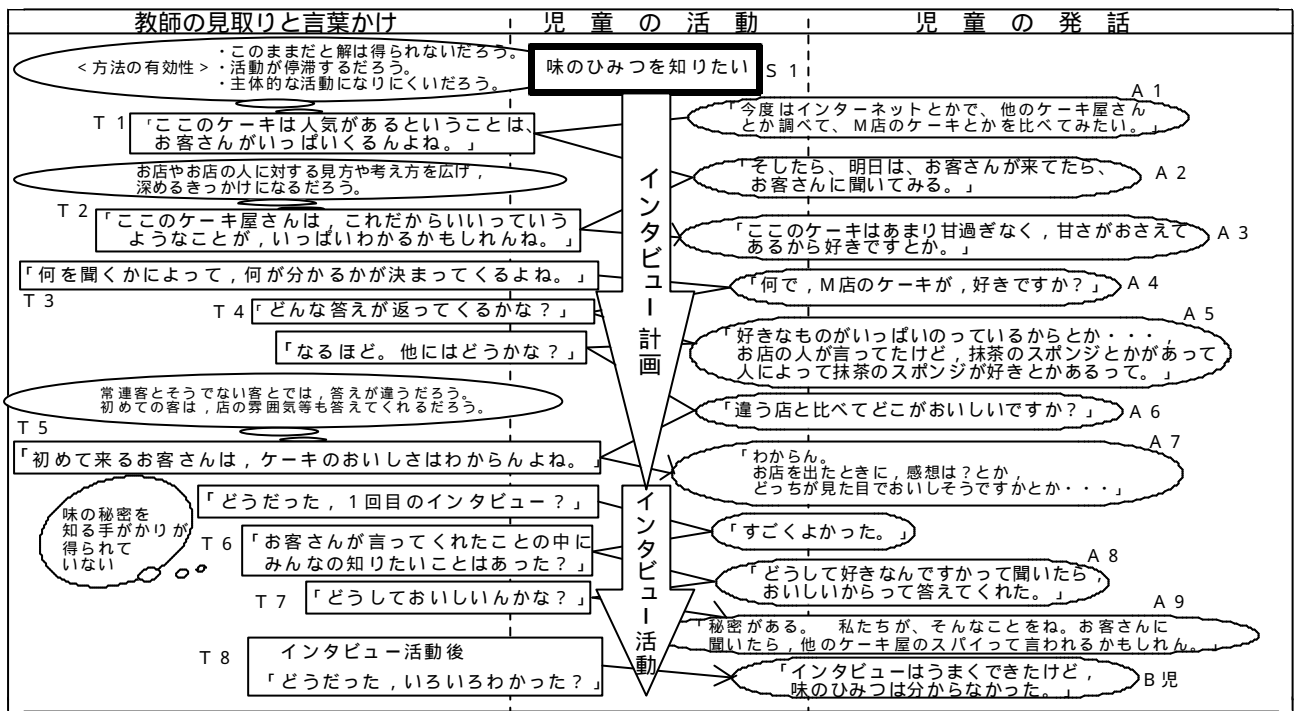


図1 A児と教師とのかかわり合いの実際(場面1)

の場面におけるA児の活動・発話や教師の見取り・思い、言葉かけを時系列にまとめたものである。

味のひみつを知りたい(S1)の課題をもちケーキ屋さんを訪ね、インタビューしたが、味のひみつを教えてもらえなかった。そこで、A児はインターネットを使って調べようと他の児童に働きかけた(A1)。他の児童もその提案に興味を示した。

しかし、教師は、インターネットで調べるという方法では課題(S1)を充足させる解は得にくく、活動が停滞するだろうと予測し、お客さんへのインタビュー活動へと導く言葉かけをする(T1)。それは、お客さんにインタビューすることによって児童の関心が「味のひみつ」から「味をつくりだしているもの(ケーキや店の人のよさ・魅力)」へ向かうのではないかと考えたからである。A児は、この教師からの提案に対して、「そしたら、明日は～お客さんに聞いてみる。」(A2)という賛成の意志を示し、それをきっかけに他の児童も賛成の意を表し、お客さんにインタビューする活動が設定されることとなった。

また、教師の「～いっぱいわかるかもしれんね。」

(T2)などに対して、A児は、「何で、M店のケーキが好きですか」や「違う店と比べて、どこがおいしいですか」など、インタビューの項目を次々に提案した。A児のこの活動に対する積極性と期待感がうかがえる。

なお、このグループが考えたインタビュー項目は次のとおりである。

表3 インタビュー項目

全員	この店で買うのは初めてですか？
	今日はどうしてケーキを買いに来たのですか？
初めての	どのケーキを選んだんですか？
人	選んだわけを教えてください？
	他のケーキ屋さんM店のケーキの見た目はどう違いますか？
	その他このお店の感想がありますか？
初めてで	よく来るのですか？
ない人	何でM店のケーキが好きなんですか？
	他のケーキ屋さんM店のケーキ屋は、どこがどのように好きなんですか？
	M店のケーキで、みんなに教えてあげたいのは、どのケーキですか？
	その他このお店に感想はありますか？

活動では、4人のお客さんに話を聞くことができた。表4は、児童がインタビューで聞き取ったことを整理したものである。

インタビュー後の児童の記録をみると、「おいしいから」や「味が上品だから」などのケーキの味の特徴ばかりでなく、「従業員さんの対応がいい」や

表4 インタビュー結果

質問の概略	お客様の答え(初めてでないお客様4人)
- 来店状況	初めてでない。(全員) 子どもへのバースデーケーキに。
- ケーキ購入の理由	お見舞いにもっていく。 病気の子どもへのおみやげ。 会社のお姉さんたちに頼まれて。
- 利用頻度	よく来る。(全員)
- M店のケーキを好む理由	おいしいから。(2人) 子どもが好きだから。
- 他店との比較	会社の女の人們が好きだから。 シュークリームがおいしいし、安心して買えるから。(3人)
- おすすめのケーキ	味が上品だから。 シュークリーム。(3人) どのケーキも全部。 感じがいい。(2人)
- その他の感想	従業員さんの対応がいい。 お客様への接し方がていねいで、上品で感じがいい。

「お客様への接し方がていねいで、上品で感じがいい」など、ケーキを売る側である店の人の魅力などについても記している。当初の教師の思いにせまるものに児童は気付いているものの、インタビューの成果として児童が挙げているものは、B児の「インタビューはうまくできたけど、味のひみつは分らなかった」に代表されるように“隠し味は何か”から超えるものとなっていないことが分かる。

(4) 「まとめる・つなぐ段階」の児童(ケーキ屋さんグループ2)の活動

当初この段階の活動は、これまでの活動成果(地域のよさや人々の地域に対する思いや願いは何か?)に対する解)を検討し、その結果をまとめるとともに、自分たちにできることを考えたり実践したりする活動であった。しかし、このグループは活動の前段にまで達していなかったため、ケーキ屋さんのキャッチフレーズを考える活動を設定することとした。

このキャッチフレーズづくりに当たっては、児童に対して、これまで書き残しておいた活動記録を参考にするよう働きかけた。なお、表5は、この記録の一部をまとめたものである。

表5 活動して分かったこと

	分かったこと
再発見タイム	ケーキを作ることばできない - たくさんのおいしいそうなケーキがあった - アニメキャラクターのケーキがいっぱいあった - きれいなお店だった - 午前中は仕事が忙しい - お店の人がとても親切だった
調べタイム1	ケーキを作っているところに入ることばできない - シュークリームは1日に600個売れる - ケーキは1日に200個売れる - いろいろなたoppingがあった - プリンやゼリーは6月からよく売れる - クッキーは3月-4月によく売れる - 土曜日にお客様が多い
調べタイム2	アニメキャラクターのケーキは全部手作りである - 絵をかいて持ってくれば、それをケーキにしてくれる - 毎日50人のお客様が来る - お客様が注文しやすいように、キャラクターのケーキを写真にしてたくさん置いてある - 季節に合わせてフルーツの種類を変えている - お店に花が飾ってあった

この記録から分かるように、児童はこれまでの諸活動を通して、販売されているケーキの特徴(など)や売れ筋(など)、店の人の働きぶりや工夫・努力(など)についての気付きを残していたのである。この活動記録が十分生かされていないことが、活動を深めさせ、より有意義な学びとすることができなかった原因の一つであると考えられる。

A児の活動の様子(場面2)

この場面は、教師も加わって、先のキャッチフレーズを検討し合う場面である。また、図2は、その活動場面におけるA児の活動・発話や教師の見取り・思い、言葉かけを時系列に示したものである。

以下はそのグループのA児の活動の様子である。

教師の発話「~けちじゃけん教えてくれんかったんかね?」(T9)に対して、A児は「けちじゃない~。」(A10)と強い口調で否定した。「~どんなふう働きよった?」(T10)に対しては、「もう、一生懸命~。」(A11)と、お店の人のケーキ作りに対する真剣な姿勢や、集中してケーキを作る様子について身振りを交えて答えた。他の児童も同様の身振りを交えて、お店の人の様子を表現した。その後の教師の問いかけに対して、「~明るくむかえてくれた」(A12)、「~お客様が大切だから~。」(A13)「一生懸命作ってて~いつもお客様に明るくしてる。」(A14)などの、お客様を大切に、気持ちよく店を利用してもらおうと努力し、工夫しようとするお店の人の思いを、自分なりに語っている。このように、児童は自分たちの調べたことから、お店の人の仕事に対する姿勢(下線)、思いや願い(下線)に意識を向けている。

次に、教師は、お店の人の心情に対する自分なりの考えを表現させるために「~キャッチフレーズを考えてみたら。」(T14)と働きかける。児童は、「ベリーグッドのケーキ屋さん」「ベリーブツなケーキ屋さん」「ミニバースデー」などのアイデアを出した。A児のキャッチフレーズには、お客様を大切に、集中してケーキを作り、明るくがんばっているお店の人の生き方に共感する気持ちが表れている(A15)。

その後の話し合いで、児童は、お店やお店の人の

